

# 長野県埋蔵文化財センター ニュース

## みすずがる

8号

平成 17 年 12 月 26 日発行



### 千曲川に面した縄文時代中期の集落跡—千田遺跡

千田遺跡は中野市（旧豊田村）替佐<sup>かえさ</sup>にあり、千曲川に面した南向き斜面に東西およそ 500 m にわたって広がります。4 月から調査をおこなっている遺跡中央部は約 6,000 m<sup>2</sup>の面積があり、11 月半ばまでに古墳時代後期 3 軒、弥生時代後期 6 軒、縄文時代中期 55 軒の住居跡などが確認され、300 箱以上の遺物が出土しました。今回は、縄文時代の成果をご紹介します。

# 2005年発掘調査情報



千田遺跡

替佐地区千曲川築堤工事関連

表町遺跡

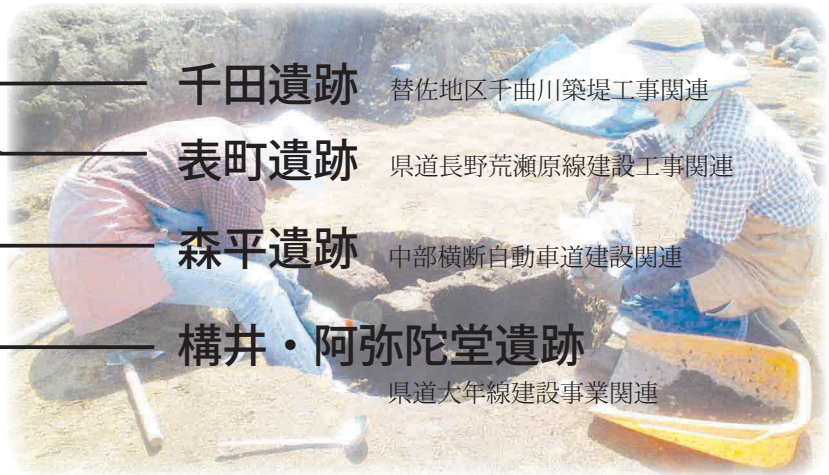
県道長野荒瀬原線建設工事関連

森平遺跡

中部横断自動車道建設関連

構井・阿弥陀堂遺跡

県道大年線建設事業関連



## 千田遺跡

—新潟県方面との文化の共通性— 中野市豊津

千田遺跡に人の活動の痕跡があらわれるのは縄文時代前期（およそ 5,000 年前）にさかのぼります。中期中頃（4,500 年前）には竪穴住居が並ぶ集落がつくられ、後半になると集落の規模が大きくなりました。住居跡は直径 4～9 m ほどの円形か楕円形で、壁際を一段高く掘り残したり、溝がめぐる家もあり、床面には柱穴や炉があります。炉は大部分が石囲炉ですが、地床炉・埋甕炉もあります。なかには新潟県方面と共通タイプの「コ」の字形に石を埋め込んだ直径 1 m 以上の炉もあります。屋外には河原から大きな石を運んで並べた、列石や配石遺構がありました。

土器は立体的な突起やさまざまな渦巻文で飾った迫力のある縄文土器です。ほとんどが新潟県方面の特徴をもつもので、長野県らしい土器はあまりみられません。石器は木の実加工用のくぼみ石や石皿が多く、狩猟・解体用のやじりやナイフ、土掘り用具の打製石斧は少数です。反面、伐採・加工用の磨製石斧がたくさん出土していることから、千曲川を往来するための丸木舟やいかだをさかんに造っていたのかもしれない。このほか 35 点以上の土偶、滑石製ペンダント、牙形土製品なども出土しています。

縄文時代の集落としては北信地方で最大級の規模となり、新潟県方面と共通の地域色を持ちながら営まれた拠点のすがたが明らかになるとうとしています。



上空から見た千田遺跡



竪穴住居跡内の遺物出土状況

## やづつ 矢筒城の南に広がるムラ

### おもてまち 表町遺跡

飯綱町牟礼

表町遺跡は、以前から、縄文時代から江戸時代にかけての遺物が採集されており、大きな集落遺跡の可能性があるとされていました。

見つかった遺構・遺物の90%以上は、中世（約500年前）のものです。掘立柱建物跡、井戸、鍛冶の鉄くずが出土した溝、内耳土器やかわけ、石臼・石鉢などの生活用品、農作業に使われたと思われる木の道具など、その頃の人びとの生活のにおいが感じられるものばかりです。矢筒城との関係を今後探っていきます。



中央のこんもりした山が矢筒城。  
遺跡はこの南側に広がっています。

## 新たに発見された遺跡

### もりだいら 森平遺跡

佐久市横和

これまで湯川に面した低い段丘上には遺跡がないと考えられていました。ところが今回、弥生時代中期後半（約2,000年前）のムラ跡が新たに発見されました。

竪穴住居跡8軒、お墓と思われる穴などが調査されました。多くの住居跡からは、炭化材と焼け土が見つかっています。建物を壊すときに再利用できないものに火をかけたのか、火を使った儀式をおこなったのか、等々・・・なぞ解きはこれからです。



住居跡からは炭や焼け土のほか土器や磨製石器が数多く出土しています。

## 茅野市街地の複合遺跡

### かまい あみだどう 構井・阿弥陀堂遺跡

茅野市ちの

構井・阿弥陀堂遺跡は、上川を見下ろす段丘上にある縄文時代から平安時代・中世の集落跡です。縄文時代では前期と中期の竪穴住居跡、弥生時代では後期の竪穴住居跡と方形周溝墓、中世では石室と考えられる方形の掘り込みなどがみつかっています。調査区の東側では、縄文時代前期前半（約6000年前）の竪穴住居跡が集中して発見されたことから、前期前半の集落南端にあたるのかもしれません。



調査中の縄文時代前期の住居跡。

## 埋文情報

### ろっかくもくどう 六角木幢（国内唯一）の複製品完成！

平成13年、千曲市八幡の社宮司遺跡から、平安時代末期（12世紀前半頃）に製作されたと考えられる木幢がみつかりました。

幢は、布製の旗に仏教像や仏の教えを記して供養したものです。今回、遺跡から出土した木幢は、その旗を6枚あわせて柱状の形に表現したもので、六角木幢と名づけました。国内初出、もちろん最古の現存例です。900年近く地中に埋もれていた木幢は腐食が激しく保存処理する必要があります。国内では唯一の木幢に、万が一のことがあってはなりませんので、保存処理作業にはいる前に、現在の状態の型どりをを行い、複製品を作成しました。このほど複製品が完成し、10月に当センターにもどってきました。



木幢に描かれている仏画



発見時の木幢



彩色作業の様子



彩色された笠と宝珠



複製品を組み立てた六角木幢

### 特別公開（複製）六角木幢 開催中

～極楽浄土への道しるべ～

期間：平成17年11月19日（土）～平成18年1月15日（日）

場所：長野県立歴史館

問い合わせ：長野県立歴史館 総合情報課

千曲市大字屋代清水 信濃の歴史公園内

TEL 026-274-2000

#### 野帳

山々は白くなり、みずがる信濃に本格的な冬がやってきました。今年度の発掘調査も終了し、冬季は整理作業にはいります。また、新たな発見がありそうで楽しみです。これらの発見は、発掘調査に参加していただいた補助員さんたちをはじめ、多くの方々の協力なしにはありえません。心より感謝申し上げます。

（財）長野県文化振興事業団 長野県埋蔵文化財センター

〒388-8007

長野市篠ノ井布施高田963-4

TEL 026-293-5926 FAX 026-293-8157

E-mail maibun@grn.janis.or.jp

HP <http://www.grn.janis.or.jp/~maibun/>